

visual	scece	shot	subtitle	object	audio	part	music / sound	lyric
シーン	ショット	字幕	被写体	ナレーション	セリフ	音楽 / 音	歌詞	
1	1			玄関にて、看板を描いている英子の父。帰宅した英子、家にお邪魔する益子		英子:ただいま。 益子:おじさん、こんばんは。 英子の父:おー、益ちゃんか。この頃はあんまり顔見せんようだが、みんな元気かね? 益子:ええ、おかげさまで。 英子の父:あーそうかい。わしのほうもたまには顔出しせんがならんのだが、御覧の通りでな。大して忙しいってほどじゃないんだが、どうも出歩くのが億劫でな。ははは・・・ 益子:ははは・・・ 英子の父:まあ、おっかさんによろしく言っておいてくれよ。 益子:ええ。 英子の父:北野さんは時々来るかね? 益子:叔父さんですか? 英子の父:うん。 益子:毎月1度は来るんです。 英子の父:うーん、そうかい。 英子:さあ、おあがんなさいよ。 益子:ええ。		
	2			英子の弟が忙しそうにご飯を食べている。部屋に上がり2階へあがっていく英子と益子。英子の父。		英子:たっちゃん、どっか行くの?そんなにあわてて。 達二:うん、洋服屋寄ってそれから活動見に行くんだ。 英子:景気がいいからって、あんまり遊んでばかりいちゃだめよ。 達二:大きなお世話だい。 英子:おやおや、大変な勢いね。2階行きましょうか。 益子:ええ。こんばんは。		
2	1			2階に上がってきた益子と英子。2階にてくつろいでいた清一		英子:あら、兄さんもう帰ってきたの。 清一:うん。 英子:益子さんよ。少しお邪魔していいでしょ。		
	2			挨拶をする益子		益子:こんばんは。		
	3			起き上がって座りなおしながら挨拶する清一		清一:やあ、いらっしやい。		
	4			2階の様子、菓子箱を机に置きコートを脱ぐ英子。コートを脱ぎたたむ益子。財布を袖の下に入れて立ち上がる清一。		英子:銅鑼焼買ったのよ。すぐお茶入れてくるから待っててね。 清一:僕ならいいよ。出かけるから。 清一:あら、兄さんも出かけるの? 折角、益ちゃん来たのに。		
	5			立ち上がる清一		清一:少し頭が痛むんだ。散歩してくる。		
	6			益子と不満そうな英子。2人の横を通り過ぎて下へ降りる清一		清一:ちょっと失礼。 英子:どうしたんでしょうね。なんだか兄貴変ね。 益子:この頃あたしに会うといつもあんな風なの。あたし何か気に障るようなことしたのかしら。 英子:そんなことないわ。少し神経衰弱よ。		
3	1			銅鑼焼きの箱を開けようとする英子。傍による益子。		英子:気にすることないわ。 益子:ねえ英子さん、		

scece	shot	subtitle	object	narration	part	music / sound	lyric
シーン	ショット	字幕	被写体	ナレーション	セリフ	音楽 / 音	歌詞
	2		座って話す益子		益子: あたし、もう清一さんと結婚できる夢捨ててしまったのよ。		
	3		(後姿からみる)益子 笑って話す英子		英子: まあ、何を言い出すの。あんな小さい時からの仲良しで、死んだあなたのお父さんとうちのお父さんが、冗談にでも一緒にしたらっていつも言い合ってた喜んでたのに		
	4		(後姿からみる)益子、話す英子		英子: それに兄貴だって、あんただって。 益子: 昔はそうだったわ。でも今はあたしが清一さんと結婚したら、清一さんを不幸にすると思うの。		
	5		理由を尋ねる英子		英子: どうしてなの?		
	6		理由を話す益子		益子: 清一さんは立派なサラリーマンだし、将来どれだけでも出世できるんだもの。その相手がバスの車掌だなんて、清一さんも肩身が狭いだ		
	7		(後姿からみる)益子、話す英子		英子: つまらないこと言いつこなし。バスの車掌だからどうだっていうの。立派な職業じゃないの。そんな卑屈なこと考えるようだったら、あたしあんたを軽蔑するわ。		
	8		英子に話す益子		益子: 清一さんがこの頃あたしを避けよう避けていることを考える		
	9		(後姿からみる)益子、笑って話す英子		英子: すいぶん鳥越苦労するのね。あたしだったら、たとえ相手がどうあろうと突進するわ。大体あんたは気が弱すぎるのよ。もっと正々堂々と構えなさいよ。負けるとこないわ。		
	10		話す英子		英子: 働いてるっていうことは誰に向っても台頭の強さを認識してれば、めそめそなんかしてられない		
	11		話になづく益子		益子: ええ、そりやそうなんだけど。		
	12		笑って話す英子		英子: もうそんな弱気な話やめて		
	13		銅鑼焼を差し出し、下へ降りる英子。写真に目をやる益子		英子: 今お茶入れてくるわね。 益子: ええ。		
	14		清一の写真				
	15		写真を見つめ、うつむく益子		叔父: 益子が		
4	1		たばこを吸いながら話す益子の叔父、居間で仕事をする妹と母		叔父: 朝早くから、今頃までじゃ大変だな。 母: ええ、とっても良く働いてくれるんですよ。お昼休みも時間が多すぎるからって、ちょっとでも飛んで帰ってきてはあたしのほう手伝ってくれるんでね、でもあんまり無理して体でも壊してくれなければと思ひましてね。 叔父: なに、もうしばらくの辛抱さ。今の話でもまとまればそれこそ小なりと言えども鉄工所の若奥様です。うーん、芝居だろうと活動だろうとお		

scece	shot	subtitle	object	narration	part	music / sound	lyric
シーン	ショット	字幕	被写体	ナレーション	セリフ	音楽 / 音	歌詞
	2		(母と時枝を正面にして)仕事をする母と時枝。煙草を吸う叔父		時枝:姉さん、そんな楽しいなんて思っていないわ。誰の世話にもならないで働く事が一番楽しい事だって言ってるんですからね。 叔父:いやあ、その心がけは大したもんだがね、女って早々いつまでも1人じゃいられねえ。うーん、それにしても馬鹿に遅いなあ。俺は7時にちょっと人に会わなければならんのだがなあ。 母:ああ、そうですか。なんだか、帰りに買い物があると言っていました		
	3		たばこを吸いながら話す叔父、居間にいる母と時枝		叔父:益子さえ口承【しょうしょう?】をしてくれりゃ、四方八方うまくいくんだがなあ。俺のほうも都合がいいし、先方は幼馴染で首つ丈だというわけだし、お母さんだってお前もいつまでもそんな苦労しなくて済		
	4		(母と時枝を正面にして)居間で仕事をする母と時枝。立ち上がり帰り支度をする叔父		叔父:うーん、とにかく一度連れてくることにしよう。そして一緒に芝居でも見に行く事にしてな。うーん、益子にはあんたからそれとなく大体の話をしている貰おう。2.3日うちに久保田の若大将と一緒に来るからな。こんないい話ってそうさらに転がってるともんじゃないから。しっかり頼むよ。うん? 母:何のお構いもしませんで。あ、あの、それからついですから、あの		
	5		笑う叔父		叔父:なあに。いいんだよ。他人じゃあるまいし、いつだっていいんだよ。		
	6		靴を履いて家を出る叔父、見送る母。仕事をしていた手を止め、お湯を沸かしに台所へ行く時枝。帰宅した益子		叔父:うーん、じゃあ、益子によろしくな。 母:どうも失礼しました。 時枝:【ていさい?】な言いかた言ってるわ。他人よりもっとひどいくせに。 母:あんまり叔父さんの気の障るようなこと言うんじゃないよ。あたらず触らずにして、そっとしておきいいんだよ。 時枝:だってあんまり自分勝手だから。 母:さあ、晩の支度しなくっちゃ。 時枝:お湯だけわかしゃいいんでしょ。 母:うん。 時枝:あたしやるわ。 母:そうかい。 益子:ただいま。		

scece	shot	subtitle	object	narration	part	music / sound	liric
シーン	ショット	字幕	被写体	ナレーション	セリフ	音楽 / 音	歌詞
5	1		居間を見る益子、片づけをする母、益子を出迎えプレゼントを受け取る時枝		<p>益子:誰かきたの？</p> <p>母:うん、叔父さんがね。</p> <p>益子:あら、もう取りにきたの？いつもより早いじゃないの。</p> <p>母:うん、今日はね、そんなようじで来たんじゃないんだよ。お前に話があるってずいぶん待ってたんだけど、今さっきまた来るって帰ったんだよ。</p> <p>益子:ふーん。</p> <p>時枝:あ、お帰りなさい。</p> <p>益子:あ、時ちゃん。これあんたの。</p> <p>時枝:まあなあに？うわあ、すごいわ。どうしたの姉さん。こんな無理していいの？</p> <p>益子:生意気言うんじゃないの。あんた明日試験でしょ。だからそれ持ってた方がいいと思っただよ。</p> <p>時枝:すいません、姉さん。あたしも上手く【じゅうじゅん？】できたら姉さんになにかお礼するわ。</p> <p>益子:ふふふ…あてにしないで待ってるわ。ねえお母さん、叔父さんの</p>		
	2		話す母と益子		<p>母:お前の縁談なのさ。</p> <p>益子:ふーん。</p> <p>母:そっか、お前も知ってる久保田鉄工所の息子さんね、あそこからおじさんに話があったんだそっか。</p>		
	3		話す母、話を聞く益子、益子にもらったプレゼントをいじりながら話を聞く時枝		<p>母:叔父さんとしちゃあ、自分とこの親工場だし、二つ返事で飛んできたらしいんだけどね…。</p> <p>益子:お母さん、はっきり断ってやっただよ。</p> <p>母:だっておまえ、そうはできないよ。本人のお前の考えも聞かないよ。</p> <p>益子:駄目ね、お母さん。あの叔父さんは信用できる人じゃないじゃないの。自分に都合のいい虫のいいことばかりいってくるんだから。それにその話がどれだけいい話でも、あの叔父さんのなかじゃまるで問題にならないんじゃないの。</p> <p>母:だってね、おまえだってもうお嫁に行かなきゃならないしね、そういつ</p>		
	4		話す益子		<p>益子:あの叔父さんにはお父さんもあたし達も散々な目に合わされてるんだから、お父さんの店をつぶしたり、あたしを芸者に売ろうとしたり、おまけに未だに【来年？】よりくい下がって、払わなくてもいいようなお金を毎月取りに来るんじゃないの。ねえお母さん、お願いだからあの叔父さんにはあんまり相手にしないで</p>		
	5		話す母		<p>母:あたしだってそう思うんだけど、お前にいつまでも苦労させてとくの</p>		

scece	shot	subtitle	object	narration	part	music / sound	lyric
シーン	ショット	字幕	被写体	ナレーション	セリフ	音楽 / 音	歌詞
	6		話す益子、うつむく母、立ち上がって台所の様子を見に行く時枝		益子:心配要らないわ。赤ん坊預かってながら、往復2時間の労働に頑張ってる政子さんに比べたらあたし達上の上よ。 時枝:あ、そうそう。		
	7		台所を確認する時枝、居間で片づけをする母、コートたたむ益子		時枝:あらやだ、持ってきた。一同:ははは... 益子:あ、お母さん、英子さんとこのおじさんがよろしくて。 母:あ、どうだったい？忙しそうだったかい？ 益子:うーん、そうでもなさそうなの。 母:ふーん。うちのお父さんと一緒に装飾屋始めた頃、あの人も元気だったけどね。 益子:とくたろう叔父さん、時々来るかいて聞いてたわ。 母:そうだろうね。うちのお父さんなんてたって兄弟だから仕方がないけれど、達三さんには他人だからね。そりゃ腹も立ってるよ。あ、この間清一さんに会ったよ。 益子:どこで？ 母:駅の前で。会社の帰りらしいかったの。立派になったね。カバンなんか提げて【すまあして？□□】 益子:ちょっと着替えてくるわ。		
	8		着替えるといって上に登る益子				
6	1		2階の部屋、益子が上がってくる				